

介護福祉研究センター 平成30年度事業報告

会議関係

運営委員会

日 時	議 事 内 容
第1回：平成30年4月12日（木）	・運営委員会の開催日時 ・研究員の継続状況 ・前期センター会議及び介護福祉セミナー ・センター紀要「介護・福祉研究」第5号 ・センター事業担当者の確認 ・定例研究会 ・介護福祉研究第4号の配布 ・三重県文化会館との連携 ・全国障害者問題研究会との連携 ・介護職員キャリアアップ講座
第2回：平成30年5月24日（木）	・定例研究会 ・新規研究員の推薦 ・前期センター会議及び介護福祉セミナー ・センター紀要「介護・福祉研究」第5号 ・高校生等見学バスツアー ・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動 ・他団体との連携
第3回：平成30年6月14日（木）	・「高田短期大学介護・福祉研究」投稿規定の一部改正（案） ・前期センター会議及び介護福祉セミナー ・「介護・福祉研究」第5号の印刷業者の選定 ・定例研究会 ・他団体（三重県文化会館ほか）との連携
第4回：平成30年7月26日（木）	・高校生等見学バスツアー ・定例研究会 ・介護職員キャリアアップ講座 ・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動 ・施設との交流事業 ・「介護・福祉研究」第5号 ・全国障害者問題研究会との連携 ・学生ボランティアの組織化について
第5回：平成30年8月28日（火）	・「介護・福祉研究」第5号の執筆者の決定
第6回：平成30年9月10日（月）	・定例研究会 ・施設との交流事業 ・第2回介護福祉セミナー ・全国障害者問題研究会との連携、公開講座 ・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動 ・ホームページの充実

第7回：平成30年10月25日（木）	・後期センター会議及び介護福祉セミナー ・定例研究会 ・介護職員キャリアアップ講座 ・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動 ・施設との交流事業 ・公開講座のちらし配布 ・「介護・福祉研究」第5号
第8回：平成30年11月22日（木）	・後期センター会議及び介護福祉セミナー ・定例研究会 ・介護職員キャリアアップ講座 ・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動 ・他団体との連携 ・新規研究員の推薦 ・「介護・福祉研究」第5号
第9回：平成31年1月24日（木）	・定例研究会 ・全国障害者問題研究会東海ブロック研究集会 in MIE ・三重県教育委員会 中ブロック交流会 ・「介護・福祉研究」第5号
第10回：平成31年3月15日（金）	・次年度前期センター会議及び介護福祉セミナー ・定例研究会 ・公開講座の総括 ・他団体との連携 ・「介護・福祉研究」第5号の配布等

センター会議

前期センター会議：平成30年6月24日（日） 参加者：8名

於）介護福祉研究センター

- ・平成29年度事業報告
- ・平成30年度事業計画
- ・「高田短期大学介護・福祉研究」投稿規定の一部改正
- ・新規研究員の紹介 川喜田多佳子（本学教員）
服部優子（非常勤講師）
松枝桂子（非常勤講師）
水野友美（非常勤講師）

後期センター会議：平成30年12月15日（土） 参加者：9名

於）介護福祉研究センター

- ・平成30年度事業経過報告
- ・平成31年度事業計画（案）
- ・平成31年度予算要求（案）
- ・新規研究員の紹介 中嶋麻衣（学識経験者）



研究活動

定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々を研究員に招き現在41名の研究員が在籍している。毎月一回の定例研究会を開催し各分野の情報交換を行い、地域に還元できるよう学びあっている。

第23回定例研究会 : 6月14日(木) 於)介護福祉研究センター	
テーマ:「認知症の絆」～ユマニチュード方法～ 発表者:高山文博研究員、参加者:12名 内 容:利用者が満足して楽しく生活できれば、その方法はどのようなものでもよいという前提で、しかしそのための有効な方法のひとつとして、ユマニチュード方法の効果や方法について、事例や実技を通してわかりやすく説明していただきました。	
ユマニチュード方法では、支援が人と人とのつながりであることを基本に、その人の尊厳、主体性の尊重を前提に、「見る」「話す」「触れる」「立つ・歩く」という4本の柱を大切にしながら、①出会いの準備、②ケアの準備、③知覚の連結、④感情の固定、⑤再会の約束という5つのステップを踏んで実践することが重要であると学びました。	
第24回定例研究会 : 7月26日(木) 於)介護福祉研究センター	
テーマ:民生委員・児童委員制度100年の歩みの中での新任民生委員の活動実践報告 発表者:中川千代研究員、参加者:11名 内 容:民生委員制度の歴史、制度についての説明の後、定員の増加に委嘱が追いついていない現状や在任期間の短期化(再任委員の減少)など、今日の民生委員を取り巻く課題について学びました。さらに、災害時要支援者マップの作成や自宅で死亡していた高齢者との遭遇事例、地域福祉活動への協力や地域行事への参加を通した民生委員活動など、中川研究員自身の実践活動と、その具体的取り組みについて話を伺いました。参加者からも、民生委員選出に関する課題や要支援者を把握するうえでの課題、現行の制度上の課題などについて意見や質問が出され、今後の制度継続に関する意見交換が行われました。	
第25回定例研究会 : 8月28日(火) 於)本学介護福祉研究センター	
テーマ:母子生活支援施設入所世帯の所得状況について 発表者:武藤敦士研究員、参加者:9名	



内 容：報告ではまず、母子生活支援施設に入所している世帯の入所要因として、住居の喪失と新しい住居を確保するために必要な所得の不足が特徴的であることに加え、母親が抱える多くの問題が重層化し、それらが複雑に絡み合って世帯の生活問題として作用しているとともに、抱えている問題が多いほど重度の生活困難に追い込まれ、それが長期化し、そこからの脱出が困難になっていることが指摘されました。

さらに、入所世帯が2～3年で経済的に自立することが困難であるだけでなく、就労収入の不足を児童扶養手当等社会手当のみで補完すること自体が困難であり、結果として生活保護に頼らざるを得ない世帯が多くみられることも報告されました。参加者からは、母子生活支援施設の現状や母子世帯が抱えている様々な課題について意見や質問が出され、制度や支援に関する意見交換が行われました。

第26回定例研究会：9月13日（木）於）本学介護福祉研究センター

テーマ：大正15年の十勝岳噴火における高田派僧侶の地域福祉活動

発表者：千草篤磨研究員、参加者11名

内 容：当時、津市から上富良野に入植した「三重団体」と呼ばれる人々の惨状と被災地における高田派僧侶の活動を綴った報告を、三浦綾子（1982）『泥流地帯』『続・泥流地帯』に記載の内容と照らし合わせて分析した結果から、当時の被災状況について学びました。



この研究は、「三重団体」の多くが当地にある高田派専誠寺の門徒であったことから、高田派僧侶であった千草センター長の祖父が被災地を訪問した際に綴った当時の貴重な記録を千草センター長自身が発見したことがきっかけとなっており、今回の資料を学際的に分析した研究結果は高田短期大学介護・福祉研究センター紀要『介護・福祉研究』第5号に掲載予定です。

第27回定例研究会：10月25日（木）於）本学介護福祉研究センター

テーマ：社会福祉法人天年会の事業について

発表者：徳山貴英研究員、参加者：10名

内 容：現在勤務している天年会の現状と今後の取り組みについてご報告いただきました。天年会が運営する特別養護老人ホーム、ショートステイ、居宅介護支援事業所、養護老人ホーム、グループホーム、デイサービス、就労継続支援B型事業所、地域福祉推進室といった法人内の各事業所の紹介とともに、稼働率を手がかりに各事業の必要性を学ぶことができました。一方で、法人運営のうえで経営を意識しなければならないため、福祉事業本来の姿とのギャップに悩む場面があるという、現場ならではの話も伺うことができました。さらに、人材育成と職員の定着が現在の大きな課題であり、そのために職員研修等に力を入れているという説明もありました。人材を確保しどのように育成するかは法人の今後の課題でもあり、これは介護現場全体の課題とも共通するため、それについて参加者と議論を深め課題を共有しました。



第28回定例研究会 : 11月26日(月) 於) 本学介護福祉研究センター

テーマ: 教職を目指す学生の「介護等体験」に対する施設からの指導や助言～社会福祉施設・特別支援学校の実習担当者の回答より～

発表者: 藤重育子研究員、参加者: 10名

内容: この研究は学生に介護等体験実習の意義を伝えるための研究の一環として、社会福祉施設の職員や特別支援学校の教諭を対象におこなった質問紙を用いた調査の結果から、実習先が学生に求めることの共通点と相違点を明らかにしたものです。報告からは、両実習先ともに実習生に求める基本的な意識・態度、身につけておくべき能力については共通しているものの、社会福祉と教育という両者の位置づけの違いから、実習生に求める学びの視点や内容には様々な相違点があることを伺いました。その後、参加者間で制度の理解、実習の効果などについて意見交換を行いました。藤重研究員からは、この研究結果を介護等体験実習の後に実施される実習に活用できるような指導につなげていきたいという展望も伺いました。



第29回定例研究会 : 1月17日(木) 於) 本学介護福祉研究センター

テーマ: 二人の女性仏教徒の福祉活動ー法均尼と九条武子ー

発表者: 金信昌樹研究員、参加者: 10名

内容: まず、仏教思想の基本である4法印についてわかりやすく解説いただきました。次に奈良時代末期の女官で日本の仏教保育の祖といわれる法均尼が、恵美押勝の乱によって生じた戦災孤児の収養や連座者(斬刑)の助命減刑の嘆願活動に加え、孤児の成人を機に生活、生存の保障を行った事績について説明されました。そして、九条武子が西本願寺第21世門主大谷光尊の次女として生まれ、41歳の若さで奉仕活動の過労から亡くなるまでの生涯の事績(特に浄土真宗の教えに基づいた女子教育の場や医療社会事業の先駆的施設となる「あそか病院」の設立)について紹介され、意見交換を行いました。それぞれの時代に社会的弱者を対象に支援を行うのみでなく仏教思想を通して自立を促す活動を実践した女性たちの生育環境や「教化」という言葉の意味するものなど多くの学びがありました。



第30回定例研究会 : 3月14日(木) 於) 本学介護福祉研究センター

テーマ: 卒業生の私から伝えたいこと

発表者: 清水友里恵(H18年度入学1期生)、参加者: 12名



内容: 記念すべき第30回の定例研究会は、卒業生を招いて開催しました。清水先生は卒業後、特別養護老人ホーム勤務を経て看護師の資格も取得し、現在は病院に勤務されています。報告は清水先生がなぜ介護職を目指したのか、そして、なぜ看護師を志望したのかをお話しながら、自らの経験を通して介護現場で働く楽しさと現場の課題、さらに今回は本学介護福祉コースの現役学生も参加していたため、在学中の学びをふり返りながら、現在それらがどのように実践に生かされている

のか、エピソードを交えながらわかりやすくご説明いただきました。また、介護と看護、両方の現場を経験しているからこそ、医療行為ができるようになったこと、症状の医学的な背景を理解できるようになったことに喜びを感じながら働いていることをお話しいただくとともに、両者の違いとして、「治療の場」で働く看護職と、「生活の質」の維持・向上を目指す介護職それぞれの専門性の違いからくる視点の違いと、両者が互いに協力・連携することの必要性をご指摘いただきました。

実施事業

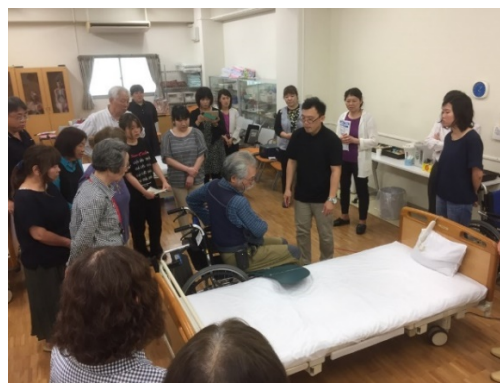
介護福祉セミナー

第1回 6月24日（日） 13:30～15:30 於）高田短期大学 介護実習室

テーマ：「機能を活かした起居動作と移乗動作介助」

講師：宮川智行研究員

参加者：27名



第2回 12月15日（土） 13:30～15:30 於）高田短期大学 育児文化室

テーマ：「音楽を取り入れた介護予防」

講師：長谷川恭子研究員

参加者：51名



白子公民館の高齢者と学生の交流事業

第1回 6月2日（土） 10:30～12:00

高齢者：15名 学生：18名 研究員：中川千代、伊藤利美

内 容：卒業生の特別参加があり卒業後の現状報告を聞く。

「いつでも夢を」の合唱、この音楽に合わせた体操、紙風船たたき（バトン）

2年生の進行による〇×クイズ（グループ対抗）。

昨年度から顔見知りになっている高齢者が学生たちとの久しぶりの再会に「久しぶりや



なあ。元気にしとった？」などの自然な会話がみられ笑顔の再会となった。

第2回 7月7日(土) 10:30~12:00

高齢者：11名 学生：14名 研究員：伊藤利美

内 容：学生の企画進行によるジャンケンゲーム、風船を使った競技など



2年生が企画し進行役を行った。1年生の参加者の手本となった。

第3回 9月1日(土) 10:30~11:50

高齢者：7名 学生：8名 研究員：中川千代、伊藤利美

内 容：「ふじの山」の指体操、「いつでも夢を」の音楽に合わせた体操、ボタンを使ったリレー、スポンジタワー、おうぎ鶴(折り紙)



第4回 10月13日(土) 9:30~11:00

高齢者：11名 学生：7名 研究員：中川千代

内 容：白子公民館成人講座受講生の山尾教雄さん所有の畑で、サツマイモのつるの切り方や茎の周囲の土をスコップで掘り起こす手順を教わり、ボランティア実践講座受講生の方と一緒に収穫を行った。



第5回 11月3日(土) 10:30~12:00

高齢者：6名 学生：9名 研究員：中川千代、伊藤利美

内 容：「人間すごろく」～床にすごろく盤を貼り、チーム対抗でとまったコマに書かれている事柄を協力してクリアしながらゴールを目指す。

今回は、1年生が司会進行を担当した。高齢者の人数は少な目だったが、とても盛り上がった。



第6回 12月1日(土) 10:00~12:00

高齢者：40名（白子公民館「旅サークル」のメンバーとともに）

学生：4名

内 容：東ソー(株)音楽部 ZOOM UP の演奏会が行われ、学生はイントロクイズで「リンゴの唄」「好きになった人」の正解に合わせて参加者とともに歌を歌った。



第7回 平成31年1月5日(土) 10:00~12:30

高齢者：11名 学生：15名 研究員：中川千代、伊藤利美、川喜田多佳子

内 容：学生、研究員の出し物

プログラム 白子公民館より2年生10名に感謝状と景品の贈呈

1. 坂さんピアノ伴奏「風になる」「優しさに包まれたなら」
 2. ヤングマン（西城秀樹）を歌って踊る
 3. ミナのネパールダンス
 4. エリナのネパールダンス
 5. 中川「別れの予感」アンコール「地上の星」
 6. 2年生全員（7名）で「糸」
- 最後に、2年生から2年間の学びとお別れの言葉



地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

津市桜橋一丁目老人会での高齢者サロン 4月8日(日) 10:00~12:00	
高齢者: 6名 留学生: 4名 研究員: 中川千代 内 容: ネパールの地理や生活事情について学習し、ネパール留学生と地域高齢者が交流する。ネパールの民族衣装の説明、ダンスを見せ、一緒に踊る。	
	
一身田桜町にこにこサロン(講師派遣) 9月24日(月) 10:00~11:30	
高齢者参加者: 24名 中川千代研究員 内 容: 「ふじの山」の指体操、ゲゲゲの鬼太郎ゲーム、スポンジタワー、ハネ馬競争	
	

鈴の音(視覚障害者向け朗読会)との連携事業

鈴の音の紹介: 「鈴の音」は、広報、週刊誌、一般図書及び雑誌をCDに収録し、音訳をすることにより、視覚障害を持つ人々との交流会を図り、社会連帯を深めることを目的とした音訳グループである。	
本センターでの活動内容: 鈴の音より井上園枝先生を招き、毎月1回、音訳に必要な知識を学びながら、読み方や声の出し方などの練習を行っている。	
活動実績 5月10日(木) 10:40~12:10 6月21日(木) 10:40~12:10 7月18日(水) 13:00~14:30 10月16日(火) 9:00~10:30 11月 6日(火) 9:00~10:30	
参加学生: 2年生3名(田中未玖、萩野智美、平岡夕季)	
研究員: 福田洋子 於) 高田短期大学 図書館プレゼンテーションエリア	

介護職員キャリアアップ講座

ふたみシルバーケア豊寿園職員研修 11月28日(水) 18:00~19:00
参加者: 35名 職種: 介護福祉士、看護師、社会福祉士、介護支援専門員
講 師: 長谷川恭子研究員

内 容：ふたみシルバーケア豊寿園にて「認知症ケア研修会」を実施。前半はリアリティオリエンテーションについて、実践するうえでの問題点を探り、訓練のポイントや具体的な実践方法・話し方についてお伝えした。後半は音楽療法で取り入れられているトーンチャイムや指揮棒を使い、歌いながら鳴らすことや歌いながらリズムを刻むことを体感し、脳への刺激となる目的をお伝えしながら学びを深めていった。職員の方々は皆さん意欲的に参加され、初めての体験に興味深く聴き入っていた。



高校生等を対象とした介護啓発事業～介護見学バスツアー

- ・ 8月8日（水）10：00～15：00
- ・ 特別養護老人ホーム報徳園、GHかなしろうず園、デイサービスきらめきを見学
- ・ 参加者：高校生4名、日本語学校留学生8名、本学学生6名 計 18名
- ・ 研究員：千草、福田、中川、長谷川、川喜田



福祉施設との交流事業

- ・ 11月16日（金）3限目、4限目
- ・ 高田光寿園に出向き、高齢者と学生がレクリエーション等を通して交流した。
- ・ 参加学生：介護福祉コース 2年生21名
千草研究員、福田研究員

本学での地域高齢者との交流

- ・ 11月30日（金）11：00～13：50
- ・ 2限目（2年生とレクリエーション交流）及び3限目（1年生「介護過程演習Ⅱ」の授業を共に受講してグループワーク等）
- ・ 学生食堂にて昼食をとりながらの交流
- ・ 白子公民館利用地域高齢者18名、学生39名
福田研究員、中川研究員、長谷川研究員



学生ボランティアの組織化「ふれんど えいむ」登録者募集事業

本センターの事業（特に地域貢献）等にボランティアとして参加してくれる学生を募り、意識付けを図るため登録会員証（名刺サイズ）の発行を行った。

現在の会員数 15 名

- ・センター各事業アシスタント等
- ・書類発送、袋詰めなど（11月13日実施）



学生に発行した登録会員証のフォーム

三重県文化会館（三重県文化振興事業団）との共同研究

- ・ 6月27日（水）4限目、5限目
- ・ 「介護に寄り添う演技」体験講座
- ・ 講師：菅原直樹氏（俳優、介護福祉士、四国学院大学非常勤講師）
- ・ 参加者：介護福祉コース 2年生 21名



他団体との連携

第2回ほくせい☆地域福祉学習会 7月14日（土）13：30～15：30
コーディネーター：千草篤磨センター長 武藤敦士研究員、徳竹夏海研究員、山本啓介研究員参加。全体参加者90名 内 容：①講演「我がこと・丸ごと・地域共生社会って何？」石倉康次講師 ②福祉現場（フロア）からの問題提起 ③地域課題をみんなで考えてみましょう
全国障害者問題研究会東海北陸ブロック研究集会2018 in MIE
についての実行委員会開催
実行委員：千草篤磨センター長、武藤敦士研究員、長谷川恭子研究員（各回参加）

第1回実行委員会	7月21日(土)
第2回	9月8日(土)
第3回	10月6日(土)
第4回	11月17日(土)
第5回	12月15日(土)
第6回	2月9日(土) (中川千代研究員参加)
第7回	3月9日(土)

平成31年2月16日(土)

《公開講座》

講師：小淵隆司氏 北海道教育大学准教授

テーマ：「子どもの障害と発達相談」

参加者：120名



《実践講座》

講師：金子直由氏

NP0 法人南勢子どもの発達支援センターえがお理事長

テーマ：「発達障害のある子の楽しいイキイキたいそう」

参加者：50名



《文化行事》

マリアバンド
有志による歌と
演奏

参加者：50名

平成31年2月17日(日) 分科会

《分科会》1～4

1) 乳幼児期 2) 学齢期 3) 青年・成人期

4) 本人分科会

保育あり(事前申し込み)

参加者：50名



保育の様子



1) 乳幼児期分科会の様子



4) 本人分科会の様子